社寺名　伊佐爾波神社（松山市桜谷町 173）

奉納者　松岡太三郎（幸久）

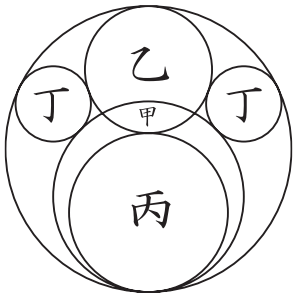
奉納年　明治 12 年（1879 年）

解　説　《愛媛県指定有形民俗文化財》

松岡太三郎は安政２年（1855）、温泉郡塩見村吉藤（現在の松山市吉藤町）の庄屋の長男として生まれ、幼少より茶道、華道を身に付け、一方、松山に数台しかない自転車を乗り廻し、近所では非常に“ハイカラな人”で通っていた。

別棟に研究室を建て、和算研究に没頭し、時折、近所の山の頂上で風船をとばした気象観測や天体観測を行い、“変わり者”と噂されもした。

松岡多三郎の名前で、松山市吉藤町の三島神社に奉納した算額は同一人物のものである。



今有如圖平圓内
容甲乙丙丁五圓
只云甲徑一百一
十四寸乙徑七十
六寸丙徑九十五寸問丁徑幾
何乃問術共圓字省之
答曰　丁徑四十五寸
術曰相併乙徑丙徑名極内減
甲徑餘乗極及丙徑爲實列極
自之内減甲徑因乙徑餘以除
實得丁徑合問

山崎昌龍門人
和気郡吉藤村
己卯　松岡太三郎
秋八月　幸久 印 印

問題文

図のように、円内に５個の円がある。甲円の直径の長さが 114 寸、乙円の直径の長さが 76 寸、丙円の直径の長さが 95 寸のとき、丁円の直径の長さを求めよ。